大東製薬工業マンスリーレポート

Vol.2 男性ホルモン補充療法について①　（2010 年 2 月 18 日 発行）

男の更年期対策は 40 代から？

経皮吸収男性ホルモン補充療法について

更年期障害といえば女性特有の症状で、男性にはあまり関係がないとお考えではありませんか？女性の更年期の場合、古くから認識されていることもあり、その診断・治療方法についての研究も多く行われ、病気としての認知が確立されています。それに比べ、男性の場合は、「閉経」というはっきりとした変化がないこともあり、「男性更年期」という病状は存在しないとさえいわれてきました。しかしながら最近では加齢に伴った男性ホルモンの減少によって更年期障害のような「症状」が起こることが知られるようになっています。

こんな症状はありませんか？

A さん（40 代）の症状

何でもないことで怒りっぽくなったり、やたらと不安になってしまったり、情緒不安定になっている。また、暑くもないのに汗が噴き出たり顔が火照ってしまったりと体調面でも変化が起きている。大事な仕事にも集中できないことが多くなり、不安が増す状態が続いている。性欲もなくなった

B さん（50 代）の症状

とにかく疲れを感じる。日常生活で大した運動もしていないのに身体の節々が痛くなってしまう。何をするにもおっくうになり、毎日が楽しくない。最近うまく眠れないため、眠るための酒量が増えてしまった。

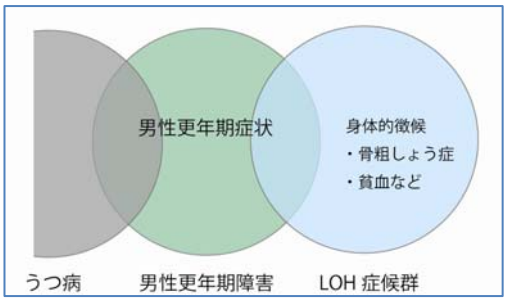
男性更年期の主な症状

▽精神・心理症状：
　うつ症状、記憶力、集中力の低下など
▽身体症状：
　睡眠障害、肩こり、頭痛、疲労感、頻尿など
▽性機能症状：
　ＥＤ（勃起障害）、早期勃起喪失、性欲の減退など

・・・以上のように、男性でも年齢を重ねることで女性の更年期障害のような症状が現れます。精神面だけでなく、身体面でも様々な症状が現れ、自分の変化に戸惑ってしまう方もいらっしゃるようです。

男性更年期障害≒LOH 症候群

男性の更年期障害は、女性の更年期障害と対をなす意味で使用されていたため、明確な定義が存在しないのが現状です。臨床現場における男性更年期障害の病態は複雑ですが、前期更年期の患者さんは「ストレス性心身症症状（うつ病など）」の割合が多く、後期更年期から熟年期では「加齢による男性ホルモン減退症状」が前面に出てくる場合が多いと考えられています。この加齢による男性ホルモン量の低下にともなう症状は「加齢男性性腺機能低下症候群（Late-Onset Hypogonadism; 以下、LOH 症候群）」と呼ばれています（右図）。



男性ホルモンには、骨を太くし、筋肉を強くする作用があります。これが減少することによって、中性脂肪やコレステロールの代謝機能が低下し、太りやすくなります。また、赤血球を増やす造血作用や血管を柔らかくする作用もあるので、減少によって動脈硬化も起きやすくなると考えられます。更に認知機能、記憶力、判断力のレベル低下にも関係するとも言われています。40 代半ばから 60 代半ばの男性における男性ホルモンの減少は、精神・身体・性機能の不全に関与しており、さらにストレスが加わることで様々な症状が現れることになります。

中高年男性を対象とした健康問題への取り組み

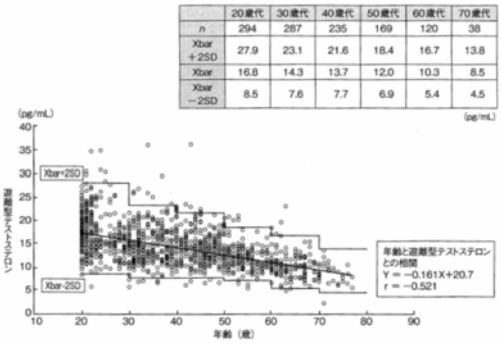
近年、人口の高齢化にともなって、中高年男性の生活の質（QOL）が問われており、学際的な視点からの取り組みが活発になっています。欧米では 1980 年代より LOH 症候群が老年病学あるいは生殖内分泌学の一領域として注目されており、1998 年には基礎・臨床的研究、卒後研究、社会への啓発を目的とする国際学会 the International Society for the Study of the Aging Male（ISSAM）が設立されました。高齢者の健康増進や予防医学として重要性が増してきています。

国内では 2001 年に「日本 Aging Male 研究会」が設立、2006 年に「日本 Men's Health 研究会」と名称変更が行われ、現在では男性特有の医学的諸問題の診断・治療・予防対策に対する総合的な活動を目的とした学会に発展しています。2007 年には、加齢男性性腺機能低下症候群（LOH 症候群)診療の手引き（日本泌尿器科学会, 日本 Men's Health 医学会「LOH 症候群診療ガイドライン」検討ワーキング委員会）が上梓されました（右写真）。LOH 症候群の発症が増えてくる 40 代半ばは、精神医学や身心医学の分野では「中年の危機」と呼ばれることもあります。中高年のための臨床男性学として、本分野の発展が期待されています。

自宅で手軽にホルモン補充

男性ホルモンであるテストステロンの血中濃度は 20 代をピークに徐々に減少していきます（右図)。40 代半ばから 60 代半ばのテストステロン低下にともなった症状を改善する治療方法として、「男性ホルモン補充療法（Testosterone Replacement Therapy:TRT)」が推奨されています。減少したテストステロンを補充することで症状を改善する治療方法です。

国内の医療用医薬品には経口剤とデポー剤があります。経口剤は天然型のテストステロンが肝臓で代謝されてしまうためメチルテストステロンが使用されていますが、肝毒性が知られています。またデポー剤は、1～2 週間に一度通院しなければならないため、治療がおっくうになってしまい長続きしないという現状があります。



	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
n	294	287	235	169	120	38
Xbar +2SD	27.9	23.1	21.6	18.4	16.7	13.8
Xbar	16.8	14.3	13.7	12.0	10.3	8.5
Xbar −2SD	8.5	7.6	7.7	6.9	5.4	4.5

日本人男性におけるフリーテストステロン値の年齢分布
出典：岩本晃明ほか：日泌会誌 95：751, 2004

このような中、OTC の低用量テストステロン外用剤「グローミン®」が注目されています。投与量が少ないため血中へのテストステロン吸収量も生理学的範囲内で穏やかであり、安全性が高いと考えられています。また、自宅で手軽に使用できる利便性からも、性機能を診療されている医師から注目されています。上述した LOH 症候群診療の手引きや、「今日の治療薬」などにも取り上げられており、効果と安全性が評価されています。次回では「グローミン®」の臨床効果について報告させていただきます。

【 次号予定】　男性の心と身体の健康管理　-低用量テストステロン補充剤の臨床効果-

ご感想・ご質問、お待ちしています。
（お名前・屋号・所在地・ご連絡先電話番号またはメールアドレスをお書き添えいただけましたら、もれなく薄謝をお送り致します。）

【 宛先： 大東製薬工業マンスリーレポート係 】
ＦＡＸ：　03-3954-2507
E-mail：　info@daito-p.co.jp

発行・宛先：大東製薬工業株式会社
マンスリーレポート係

東京都豊島区南長崎４丁目36番13号
お客様相談室：0120-246-717
URL: http://www.daito-p.co.jp/